

緑区の大学生に聞いた 将来の夢

緑区内にある4つの大学、横浜創英大学、昭和大学、東洋英和女学院大学、東京工業大学に通う皆さんに将来の夢をインタビューしました。



一番身近な保育者に

柴崎芽生さん(横浜創英大学3年)

私が幼稚園の時、自然な形で友人たちの輪に入れるように教諭が手を引いてくれました。そのおかげで、たくさんの友人と仲良く幼稚園生活を送ることができました。私も、誰も一人ぼっちにしない保育者になりたいと思っています。そして、子どもだけでなく、保護者などとも積極的に関わり、一番身近で、一人ひとりの気持ちに寄り添える保育者になることが私の夢です。夢の実現に向けて、人との接し方など毎日学びを深めています。

患者さんにとことん寄り添う理学療法士に

三樹亮太さん(昭和大学3年)

バレーボール部で怪我の多かった高校時代、理学療法士が親身に向き合ってくれました。自分もそうだったように、患者さんはたくさんの不安を抱えています。そんな不安を1つ1つ解消して、患者さんにとことん寄り添える理学療法士になることが私の夢です。細かい声かけや気遣いも患者さんの不安を大きく和らげると 생각합니다。幅広い医療知識を学ぶことはもちろん、相手の気持ちに気が付ける人になれるよう、日々学びを深めています。



映像通じて、多様な世界を伝えたい

成田絵未里さん(東洋英和女学院大学3年)

大学入学後、日本人が全くいない環境に飛び込みたいたい、アイルランドに語学留学をしました。様々な人と仲良くなり、多様な考え方を学ぶことができました。様々な世界があることを映像で多くの人に届ける仕事に就くことが私の夢です。2019年の学園祭では、実行委員長として学園祭の魅力を積極的に伝えるなど、挑戦の毎日を送ることができ、良い経験となりました。今後も、やってみたいと思ったことはすべて挑戦する姿勢を持って夢を追いかけていきたいです。

病気で困っている人の手助けを

高木康雄さん(東京工業大学生命理工学院修士課程1年)

子どもの頃から化学に興味がありました。大学院でも研究を続けています。将来は、現在の研究を生かして、製薬会社で薬の開発に携わりたいと考えています。自分の作った薬で、病気になって困っている人を助けたいという思いがあります。薬を通じて、健康な人が増えてほしいです。その結果、多くの人々が当たり前楽しく生きることができる世の中になることを願っています。

